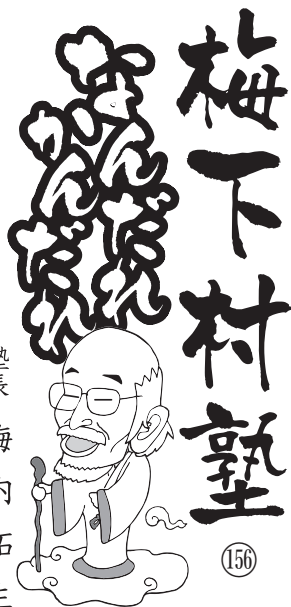


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(権力と拝金主義)

人間世界の歴史を見ると権力と拝金主義の業が深く結びついていることがわかる。我が国を取り囲む近隣の国々の状況をみると、まさにこの状況が生じている。これは既に梅下村塾(154)に詭弁と言あげて論じている。国内においてもこれと類似の状況が見られるのである。

大船渡短歌会4月例会評 (追憶と鎮魂)

(白鳥と白梅)

白鳥は先導一羽V型に並び青空飛び立ち行けり
橋爪里美

吾が余生娘の庭に見る
白梅の花
被災して三年すこせし

国賓待遇という外交儀礼においても、経済・軍事における国際関係においても、これらが如実に表れている。歴史から何を学び、それを21世紀の地球人類文明にどのような視点で重要なのである。(権力と拝金主義)は権力と富の一局集中と独占とつながり、これが生態系のバランスの破壊と社会の不安を引き起こしてい

る。
歴史からの知恵の掘り起こしと、21世紀文明の生存・存続の知恵の創造を目指すべき時が来ている。

丘ひとつ造成さるるさなかにて貝塚表れ調査始まる
佐々木せい子

偶さかに夫は夢にあらわるる吾の見立てし背広姿で
貝塚からは歴史がにじみ出てきて夫の姿は夢に現れるのですね!

返句
貝塚や 夫の姿 夜の夢

(語りつぐ)

(かたりつぐ)

家計簿に赤字の続く日々なれと達者に暮らすをはげみとなさん
齊藤陽子

語らねばいよよ昭和の遠くなる疎まれながらまたも語りつぐ
増田邦夫

押し寄せる情報の波に思い出はうたかたのよう消えていきま

す。語り継いでこそ魂は救われますね!与謝蕪村の俳句「遅き日のつもりて速き昔かな」を思い出しました。

返句
家計簿に 刻みし赤字昔かな

境なく荒草つづく被災の街生家跡地は定かに見えず
金野孝子

被災より三年経たる校庭の仮設の前けふ子等卒業す
津波の深い爪跡を乗り越えて、子どもらはきよう卒業する。若い命への期待は深まる。

返句
大震災 傷跡こえて卒業式

(心の温もり)

増田邦夫

庄内ときけば心のぬくとまる母の生まれし過疎の町なり
田端五百子

すき間風防ぐ目ばりをはがす時心地良きかな今年も春が
火の始末終へる我より先になり湯たんぼの床にもぐる仔犬は

母の故郷の街は過疎のわびしい街になってい、その思いには母への思いからくる微妙な温もりの動きが感じられる。

返句
過疎の町 母の故郷春の風

(鎮魂と謳花)

休石庄太郎
世は無常人は無明と

勿忘(わすれな)の鐘静かなり津波被災忌
咲き初めしその喜びを大空に謳うがごとく桜枝拡ぐ
無明と無常を感じる心の世界、その心は地球の運動と命を感じておられますね!

返句
鎮魂の 鐘は静かに花謳う

(めぐりめぐ)

(戻ってきた父の写真)

田端五百子

トンビ着て汀に佇む父の写真洗浄されてどこへくれたり
冷たい海に流された父の写真、それが洗浄されて暖かい我が家に帰ってきた。

父の写真 帰って暖か居間にあり
(連れ去るものつれ来るもの)

千葉ミヨ
リュック背に必死に逃げる友を見て助けてく

る人無かりしか
扉内に草深しおればさらさら雪解け水が春を連れ来る
毎年巡り来る春は雪解け水を連れて来ます。突然に襲う津波は人を連れ去ります。

返句
雪解けや花を潤し海注ぐ
大船渡短歌会からは熟年を過ぎ老いを迎える心の世界が深く伝わってきます。

(とわずがたり)
ノリ 自然と人間との歴史から何を学び、それを現実生かすことがもとめられているのだなあ!
オサム 時の流れとともに記憶はうすれるなあ!
アツシ 詠んでつなげればよいとおもうよ!
ノリ 五七五のリズムにのせることだね!
オサム 身体でおぼえたリズムはわすれないなあ!
アツシ 記憶をものがたりに織ればいいのかなあ!

(歴史と夢)

(津波の爪跡)